

阿南市民平和宣言

1945年8月6日午前8時15分、人類史上初めての原子爆弾が広島に投下され、その3日後の8月9日午前11時2分には2発目の原子爆弾が長崎に投下されました。一瞬の閃光で死んでいった人たちは、その閃光が原子爆弾であることさえ知らず、かろうじて生き延びた人たちも、原爆後遺症に苦しみ、孤独と不安の日々を送りました。私たちはこの恐ろしい原子爆弾が、二度と使われないことを願って核兵器の廃絶と恒久平和の実現をめざす強い意志を幾度となく訴え続けてきました。

しかしながら、現在においても、核兵器のみならず、核物質や核技術の流出、拡散は続いています。核戦争などによる人類の終末までの残り時間を象徴的に示す「世界終末時計」は、過去最短となった今年の「100秒前」から変わっていません。

今、私たちは、新型コロナウイルスという人類に対する新たな脅威に立ち向かい、踴（もが）いていますが、この脅威は、悲惨な過去の経験に学ぶことで乗り越えられるのではないのでしょうか。

およそ100年前に流行したスペイン風邪は、第一次世界大戦中で敵対する国家間での「連帯」が叶わなかったため、数千万人の犠牲者を出し、世界中を恐怖に陥（おとし）れました。その後、国家主義の台頭もあって、第二次世界大戦へと突入し、原爆投下へと繋がりました。

こうした過去の苦い経験を決して繰り返してはなりません。そのために、私たちは、自国第一主義に拠ることなく、「連帯」して脅威に立ち向かわなければなりません。

二度の世界大戦を経験した私たちの先輩が、決して戦争を起こさない理想の世界をめざし、国際的な協調体制の構築を誓ったことを、私たちは今一度思い出し、人類の存続に向け、理想の世界をめざす必要があるのではないのでしょうか。私たちは終末時計の針を戻すのではなく、終末時計自体が不要な世界を創らなければなりません。

「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起ることのないやうにする」という日本国憲法前文には、平和を希求するという日本国民の固い決意がこめられています。かつて戦争が多くの人々の命を奪い、心と体を深く傷つけた事実を、戦争がもたらした数々のむごい光景を、決して忘れない、決して繰り返さない、という平和希求の原点を忘れないためには、戦争体験、被爆体験を語り継ぐことが不可欠です。特に、次代を担う戦争を知らない若い人に戦争体験者の声を聴いてほしいのです。

私たちにとって、最も基本的な権利は平和への権利です。しかし、権利は不断の努力によって獲得するものです。市民一人ひとりが平和学習を深め「平和擁護非核都市の宣言」(1982年9月27日)の具体化を図っていくことが、平和なまちづくりの第一歩です。「子どもたちに核のない世界」を実現することは至難の業であっても、決して幻想ではありません。

本日の平和祈念集会にあたり、戦争で亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りするとともに、核兵器廃絶と世界平和の実現に向けて、市民一人ひとりが力を合わせ行動することを宣言します。

2021年8月6日

第37回阿南市民平和祈念集会